



巨峰、ピオーネ栽培の省力化に向けて

「果樹技術普及センター」



●ジベレリンは花穂のみに散布する

果樹の生産現場では、農家の規模拡大や高齢化に対応するため、管理作業の省力化が求められています。

そこで果樹技術普及センターでは、「花穂伸長による摘粒軽減技術」の実証と普及に取り組んでいます。これは、ブドウの栽培において年間作業時間の2～3割を占める摘粒作業を省力化するため、果樹試験場で開発した技術です。巨峰系品種の展葉3～5枚時の花穂に3～5ppmのジベレリンを散布し、花穂を伸ばして着粒密度を低下させるもので、労力の集中する摘粒作業の省力化が期待できます。

これまでの実証では、現地の巨峰で摘粒時間を3割程度短縮することができました。今後は他の巨峰系品種での効果を確認するとともに、指導機関や技術導入希望者への普及活動を行っていきます。



●房づくり前の花穂の様子(左:処理区、右:慣行区)

●摘粒前の着粒状況(左:処理区、右:慣行区)



●収穫した果実(左:慣行区、右:処理区)

果樹の凍霜害対策

事前対策

施設果樹

- ◆ 無加温ハウスでは、カーテンを閉めて保温に努めるとともに、簡易ストーブ等を使って加温する。
- ◆ 雨除け施設では、ビニール被覆により降霜を防止する。

露地栽培等

- ◆ 凍霜害の常習地帯や生育が進み被害の発生しやすい場合には摘蕾や摘花を軽く行っておき、摘果による着果数の決定は凍霜害の危険のなくなった時期とする。

事後対策

- ◆ 凍霜害発生時や開花期の低温が予想される場合には、下向き花を中心に丁寧な人工授粉を行う。
- ◆ 被害発生樹では、結実状況や新梢等への被害程度が確認できるようになってから、摘花・摘果・芽かき・摘房等の作業を行う。